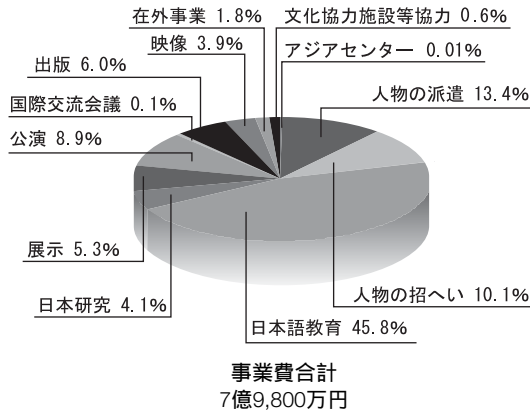


東欧

概要



東欧地域は例年、人物交流と日本語教育の2分野の比重が高いが、今年度はその傾向が一層顕著となり、全実績額の62.5%を占めるに至った。

2004年のEUへの新規加盟を目前にして、さまざまな分野における中東欧諸国の動きが活発になるなか、日本文化紹介事業、日本語教育事業などに重点をおいた。

映像分野では、東欧巡回現代日本映画祭を、ハンガリー、セルビア・モンテネグロで行ない、若手映画監督作品を上映したところ、各上映ともほぼ満席で好評のうちに幕を閉じた。また、ロシアの4都市で行なわれた日本映画祭では、現代映画と古典映画を組み合わせることで上映したところ、若者を中心に好評を博した。

舞台芸術分野では、「ロシアにおける日本文化フェスティバル2003」を契機に、「H.アール・カオス」によるコンテンポラリー・ダンス公演をモスクワおよびサンクトペテルブルグで計4回実施し、各種マスコミでも取上げられ、絶賛された。

当該地域の日本語教育熱が高まるなか、東欧唯一の基金事務所であるブダペスト事務所に駐在する日本語教育アドバイザーは、ハンガリー国内での機関訪問に加え、ルーマニアおよびクロアチアへの出張指導を行なった。また、日本からの講師を招へいた日本語教育巡回セミナーでは、ハンガリー国内のみならず、クロアチア、セルビア・モンテネグロ、ルーマニアから日本語教師が参加し、中東欧域内での日本語教師間の交流を促進した。

海外事務所報告

ハンガリー

ブダペスト事務所

1. 概況

体制転換による民主化より10年以上を経て、ハンガリーにおける社会基盤は整備され、社会的、経済的にも落ち着きをみせている。携帯電話、衛星テレビ、インターネットなどの普及により、情報の交換が容易かつ大量におこなわれるようになり、人・物の移動も充実してきている。ブダペスト市内には、大型ショッピングモールや高級ホテルが建ち、日本からの観光客も増加してきている。

一方、政治の動きとしては、2002年4月の総選挙の結果、5月からハンガリー社会党と自由民主連盟の中道左派連立政権が発足した。民主化直後の1990年の選挙ではハンガリー民主フォーラムが、1994年は社会党が、1998年はフィデス・ハンガリー市民党が勝利し、総選挙のたびに毎回主要政権などが変わってきていたが、2002年もハンガリー国民は政権党に満足せず、変化を希望した形となった。

経済面では、2002年度のGNPは537億200万ドル(世銀)、2001年～2002年の経済成長率は3.5%(OECD)、2002年度の失業率は5.6%(OECD)となっている。

ブダペストや、地方都市で毎年開催される大型イベントに加え、音楽機関の催すコンサート、各種展覧会の開催など多くの文化イベントが通年開催されており、文化都市としてのハンガリー、ブダペストの存在も確立されてきている。

2004年5月には、10か国がEUに新規加盟するが、中東欧からはハンガリー、ポーランド、チェコ、スロバキア、スロヴェニアの5か国が加盟を承認されている。また、クロアチア、ルーマニア、ブルガリア、セルビア・モンテネグロなどもEU加盟に意欲を見せており、先にEU入りする5か国も含め、今後も中東欧地域が経済的、社会的、文化的に成長していき、重要度も増していくことが予想される。

2. 日本との文化交流事業

ハンガリーにおける日本理解の新しい動きとしては、若者層を中心に、電子メディアの普及による日本のポップカルチャーに対する関心の急速な高まりが挙げられる。また、日本映画の商業ベース配給も年に数作品は行なわれるようになってきた。

一方、柔道、空手、剣道、合気道などの武道や、宗教(仏教、禅)、茶道、華道、盆栽、俳句、邦楽などを通じての、伝統的な日本文化への関心も依然として高く、両者とも、単に表層的な理解だけでなく、文化の背景となっている日本人の精神性に近づこうとする者が多い。

日系企業の工場設置や投資という形でのハンガリー進出は、市民の日本への接触機会を増し、駐在員家族、観光客、留学生な

どのハンガリーに滞在する日本人の増加は、直接的な人のつながりを生み、理解の広がり支えとなっている。とくに、リスト音楽院では、多くの日本人音楽留学生たちが研鑽の日々を送っている。

国際協力機構からハンガリーには、2004年3月現在18名の青年海外協力隊員が派遣されており、うち9名が日本語教師である。ハンガリーでは初等・中等レベルの日本語教育が盛んであることが特徴的であるが、過去10年以上にわたり、代々の隊員たちがハンガリーの日本語教育を支えている。また、武道やスポーツなどを通じて多くの隊員たちがハンガリーの人々、子どもたちと生身の交流を行なっている。

地方自治体同士の姉妹都市交流も締結されており、学校、自治体などを介して交流事業、イベントなどが行なわれている。

日本ハンガリー友好協会は、1987年設立当初の20名のメンバーから現在では600名以上の会員を擁する組織に成長し、各種イベントを継続実施している。

3. ブダペスト事務所の活動

<活動方針>

広域事務所として、ハンガリーのみならず、広く中東欧地域と日本との文化交流活動の支援を行なった。中東欧諸国にとって、2003年は大きな変化の時期であったが、そのなかで日本に対する関心も高まっており、それらの関心にどれくらい応えることができ、またこの好機を逃さずに積極的に事業を実施していくことができるかが問われる期間と認識し、可能な限り事業を行なった。

一方、日本文化に現時点で十分な関心を持っていない層へのアピールを念頭に置き、事務所図書館の拡充、小規模講演事業、日本語教室運営なども実施した。

また、近隣の在外公館とも密接に連絡をとり、情報提供、事業の巡回実施を行なったほか、事務所所蔵のパネル展の巡回展示や日本映画祭の巡回などを企画、実施した。また、事務所に派遣されている日本語教育アドバイザーを、積極的に周辺国に出張させ、情報を収集するとともに、事務所の存在をアピールするよう心がけた。

<2003年度事業例>

●津軽三味線デモンストレーション・公演(2003年9月20日、リスト記念館コンサートホール、21日、ドナウ・パロタ劇場ホール)

世界的に活躍する日本を代表する演奏家である佐藤道弘氏と、次代を担う演奏家として期待されている佐藤道芳氏というふたりの三味線奏者に、箏の海寶幸子氏、タブラの吉見征樹氏が加わり、日本の伝統楽器の魅力を紹介した。

20日は定員130名程度の会場に200名近くが来場し、超満員となった。曲の演奏と楽器の紹介、質疑応答があったが、多くの質問希望者があり、全員の質問を受けることができないほどであった。

21日は定員の300席が満席となり、立ち見を入れて350名程度

が来場した。公演の途中からも拍手の渦がいつまでも続き、進行役が客席をしずめてから次の曲に進む場面もあった。最後の曲の終了後も拍手は鳴り止まず、観客は日本の音楽を楽しんだ。

観客からは「津軽三味線の技術と音色に感激した」「琴は初めて見たが、とても繊細でロマンチックな音を出す楽器で感動した」などのコメントが寄せられ、大成功のデモンストレーション・公演となった。

●「心の在り処：日本現代美術展」(2003年12月19日～2004年2月8日、ルードヴィヒ美術館ブダペスト)

埼玉県立近代美術館の前山裕司学芸員を企画に迎え、ルードヴィヒ美術館ブダペストと共催で、日本の現代美術を紹介する展覧会を開催した。藤本由紀夫氏、畠山直哉氏、池田爆発郎氏、みかんぐみ、三田村光土里氏、村上隆氏、須田悦弘氏、高柳恵里氏、田中功起氏、月岡彩氏、やなぎみわ氏の11組の作家が出展した。

数多くのメディアで紹介され、開館40日間で、6,360名の入場があった。来場者へのアンケートでは、展覧会に満足した観客43%、たいへん満足した観客26%。回答者の63%がこれまでに日本の現代美術を見たことがなかったと回答。そのほか、コメントとして、この種の展覧会を続けて開催して欲しいというものが多い。多数であった。

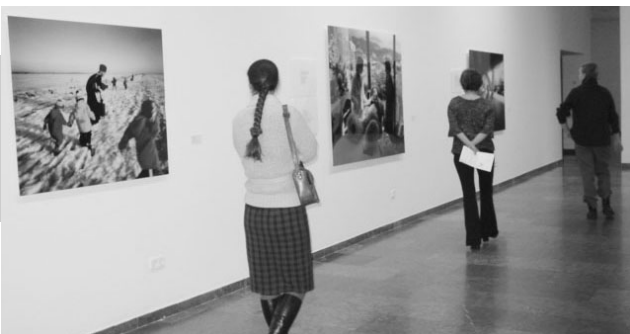
●「Project Noism04」ダンス公演(2004年1月30日、31日、トラフォ劇場)

日本を代表する若手ダンサー・振付師である金森穰氏率いる「Project Noism04」のダンス公演を行なった。両公演日とも、約300席の客席は満席となり、通路、前部に敷席を用意して、約350名の観客が鑑賞した。ハンガリーを代表するコンテンポラリー舞台芸術劇場での公演であり、来場者も目の肥えた観客が多い中、公演後は拍手が鳴り止まず、たいへん高い評価を得、大成功の公演であった。

●現代日本映画祭(2004年2月7日～13日、ウラニア映画館)

現代日本の若手監督の作品9作品(うち、SABU監督作品4作品)を、ハンガリーを代表する映画館であるウラニア映画館にて上映。SABU監督をブダペストに招き、オープニングおよび翌日のフリートークに参加いただいた。SABU監督はインタビューも多数受け、新聞、雑誌、テレビ、メールマガジンなど多くのメディアで紹介された。オープニングでは、SABU監督、稲川照芳在ハンガリー日本大使、コーシャ・フェレンツハンガリー国会議員(映画監督)が挨拶をし、SABU監督作品『DRIVE』の上映を行なった。同オープニングが行なわれた映画館大ホールの定員は450名程度であったが、ほぼ満席の状態、その後も各上映ともほぼ満席でたいへん好評のうちに幕を閉じた。来場者へのアンケート調査では、92%が「満足」、8%が「ある程度満足」(あわせ100%が満足)との結果が出、「もっと長い期間してほしい」「好評でチケットが取れないので対策を立てて欲しい(有料にしてはどうか)」などのコメントがあった。

なお、本映画祭は、ブダペストでの開催後、規模を縮小し、セルビア・モンテネグロへ巡回された。



心の在り処：日本現代美術展